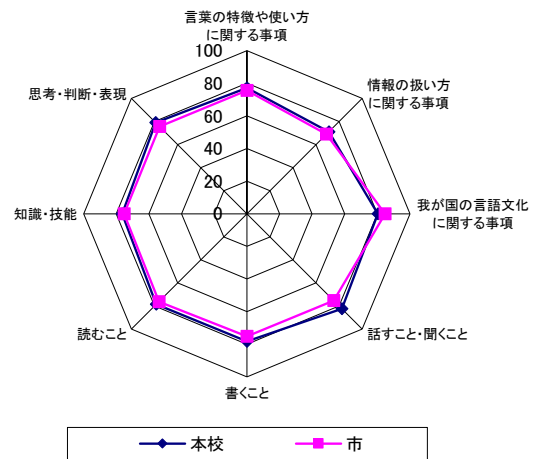


宇都宮市立陽北中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	77.2	75.6	66.5
	情報の扱い方に関する事項	71.1	69.0	62.0
	我が国の言語文化に関する事項	80.3	84.7	78.2
	話すこと・聞くこと	82.3	75.3	69.4
	書くこと	78.2	75.2	65.1
	読むこと	78.5	76.2	68.8
観点別	知識・技能	76.4	75.3	66.7
	思考・判断・表現	79.1	75.6	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

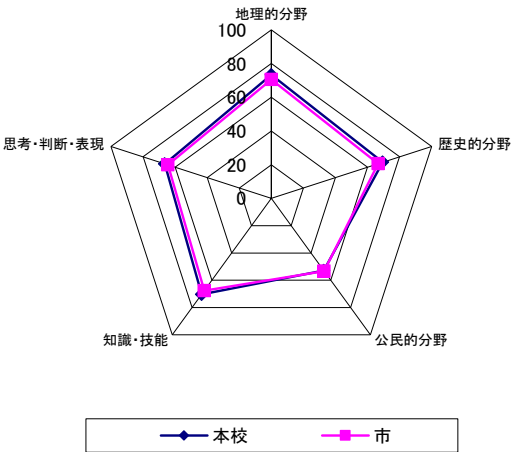
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	正答率は、市平均を1.6ポイント上回った。 ○助動詞の理解や対義語の理解について問う問題について90%以上が正解している。 ●「欺く」の漢字の読みの正答率が70.7%で市平均を2.1ポイント下回った。 ●敬語についての理解を問う問題の正答率が70.1%で市平均を3.5ポイント下回った。	・引き続き、文法事項の学習は授業で丁寧に説明し、例文を豊富に挙げたり問題練習を並行して行わせたりすることで、確実な理解と定着を図っていく。 ・漢字の読み書きについて、補助教材を活用しながら折に触れて指導し、定着を図る。スタンダードダイアリーなど日常の文章を書く機会に漢字を積極的に使うように指導する。読書の推進を図り、漢字の読みに慣れさせる。 ・敬語について、授業で丁寧に説明するとともに、実生活の中で意識的に使わせることで、理解の深化と定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	正答率は、市平均を2.1ポイント上回った。 ○情報の扱い方に関する事項に関わる問題全2問はそれぞれ短答型・記述型の問題であったが、無解答率は市平均をそれぞれ2.8ポイント・1.3ポイント下回った。 ●情報と情報との関係について理解し、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫して書く問題の正答率が58.5%で市平均を2.4ポイント下回った。	・文章の内容を図式化してまとめる学習活動を取り入れる。 ・資料を集め、集まった資料を基に文章を形成させる学習活動を取り入れる。
我が国の言語文化に関する事項	正答率は、市平均を4.4ポイント下回った。 ●現代語訳を手掛かりに古典を読んでいる問題の正答率が80.3%であった。	・古典について苦手意識を持っている生徒が多い。馴染みやすい教材で古典の面白さを味わわせるとともに、古典に親しめるように授業を展開する。 ・暗唱の活動を取り入れて、古典の表現に慣れさせる。 ・初めて見る古語も、注釈を活用し、前後の文脈を捉えることで、ある程度推測できることや、それによって初めて読む古典も読んでいけることを指導していく。
話すこと・聞くこと	正答率は、市平均を7ポイント上回った。 ○自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話していることを問う問題で、記述式の問題であるにも関わらず正答率が80.3%で、市平均を11.7ポイントも上回った。 ●自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて話していることを問う問題で、無解答率が10.2%であった。 ●話の展開を予測しながら聞いていることを問う問題で、正答率が87.8%で市平均を2.1ポイント下回った。	・日頃より、教師や友達の話を聞くなかで、相手の話を正確に聞き取ることを意識させる。授業の中でも話し合いの活動を意図的に設定して、人の話を正確に聞くことの経験を積ませる。 ・引き続き、自分の思いや考えなどの意見を話す機会を授業や学校生活の中で意図的に設定し、経験を積ませる。
書くこと	正答率は、市平均を3ポイント上回った。 ○「書くこと」に関わる全ての問題で、無解答率は市平均を下回った。 ●それぞれの問題で指定されている条件を守らなかったり、勘違いしたまま書いてしまったりしている解答が、どの問題でも一定数あった。	・引き続き、短文形式の感想文や振り返りの記述を書かせる活動を通して、「書くこと」自体に慣れさせる。 ・スタンダードダイアリーを書かせ、「書くこと」自体に慣れさせる。 ・作文を書く際に、字数や段落構成などの条件を指定して、きちんと理解して守りながら書くことを指導する。
読むこと	正答率は、市平均を2.3ポイント上回った。 ○説明的な文章の内容を読み取る問題は、全問題で正答率が市平均を上回った。 ●文学的な文章の内容を読み取る問題のうち、物語の展開の仕方を捉えていることを問う問題の正答率が74.1%で市平均を0.7ポイント下回った。 ●文学的な文章の内容を読み取る問題のうち、文章を読んで考えを広めたり深めたりしていることを問う問題の正答率が73.5ポイントで市平均を1.1ポイント下回った。	・引き続き、説明的文章の論理展開や構造を把握する読み方を指導していく。 ・文学的文章における、登場人物の行動の理由が物語の展開に照らして読み取ることができるように、授業での発問を工夫して指導する。 ・読書を推進し、様々な作品やストーリーや書き方に触れることで、想像力を豊かにさせ、さらに読解力を磨かせる。

宇都宮市立陽北中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	73.3	70.5	62.1
	歴史的分野	69.5	66.6	57.8
	公民的分野	52.9	53.3	45.2
観点別	知識・技能	70.3	67.6	59.2
	思考・判断・表現	66.4	64.5	55.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

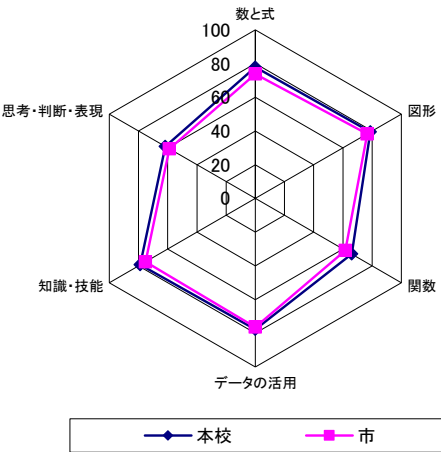
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	正答率は、市平均を2.8ポイント上回った。 ○中国・四国地方の地域活性化の取り組み(地域おこし)について回答する問題では、市平均を11.8ポイント上回った。 ●世界各地の人々の生活と環境では、市平均をわずかに下回っている問題が複数あった。 ●日本の地形の特色についての問題では、市平均を7.2ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・世界の姿では、大陸や海洋の位置、緯度や経度の理解をもとに、地図や地球儀を使って調べる学習を多く取り入れる。 ・様々な資料や問いに触れることで、資料を読み取る力や読み取ったことを考察して判断したり、文章で表現したりする力を養う。
歴史的分野	正答率は、市平均を2.9ポイント上回った。 ○資料の読み取りや複数の資料に着目して考察する活用問題では、市平均を大きく上回った。 ●市平均を下回っている箇所は、3問のみであった。 ●古墳の出土品に関する知識・理解の問題では、市平均を3.4ポイント下回った。	・歴史的事象について、基礎的・基本的な知識・技能を確実に理解できるようにする。 ・資料(史料)に触れる機会を増やし、読み取る力を付ける。 ・資料を読み取る力や読み取ったことを考察して判断したり、文章で表現したりする力を付ける。
公民的分野	正答率は、市平均を0.4ポイント下回った。 ○社会権の種類に関する理解を問う問題では、市の平均を4.4ポイント上回った。 ●公共の福祉の内容についての知識を問う問題では、市の平均を10.1ポイント下回った。	・フランス人権宣言について、歴史的分野での学習を踏まえ、我が国の人権との関連を捉えながら理解を深めさせたい。 ・「対立と合意」「効率と公正」などの見方・考え方を重視しながら、問いを追究したり具体的な事例を考察したりして学習を進めるとともに、グループでの話し合いやディベートなどの議論、レポートなどの論述を取り入れ、自分の考えを自分の言葉で表現する活動を取り入れたい。

宇都宮市立陽北中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	77.9	73.8	71.4
	図形	78.8	76.7	67.9
	関数	66.0	61.6	52.2
	データの活用	77.7	76.4	65.4
観点別	知識・技能	78.8	75.2	69.9
	思考・判断・表現	61.6	58.9	48.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

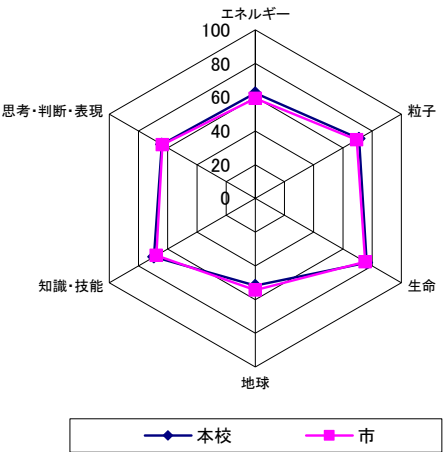
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	正答率は、市平均を4.1ポイント上回った。 ○式の展開から因数分解、根号を含む式の計算、方程式の解を求める問題まで、数と式の領域すべての問題で市平均を上回る結果となった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・問題を解くために必要な用語の知識や計算の決まり、公式の使い方を確認する。 ・様々な数や式についての問題を解き、反復練習を行う。
図形	正答率は、市平均を2.1ポイント上回った。 ○角の二等分線を作図する問題では、市平均を6.9ポイント上回った。 ●おうぎ形の面積を求める問題では、市平均を1.2ポイント下回った。	・垂線や垂直二等分線を作図を含めた基本の作図の仕方を確認し、それらを利用する作図の問題に取り組む。 ・様々な図形の知識や面積、体積の公式を確認する。また、おうぎ形の学習では、中心角や弧の長さなど、円の学習内容と結び付けながら、その理解を深めていく。
関数	正答率は、市平均を4.4ポイント上回った。 ○記述問題で、グラフから読み取ったものを用いて数学的に判断する問題では、市平均を3.9ポイント上回った。 ●グラフ上に頂点をもつ正方形の辺の長さを求める問題では、市平均を1.0ポイント下回った。	・関数についての基本的な知識は身に付いているので、その知識を他の問題に利用できるよう、表・式・グラフのつながりを意識しながら、様々な種類の問題演習を行う。 ・1次関数やxの2乗に比例する関数と図形の複合問題に取り組ませ、応用的な問題に対応できるようにする。
データの活用	正答率は、市平均を1.3ポイント上回った。 ○さいころを投げたときの確率を求める問題では、市平均を5.6ポイント上回った。 ●ヒストグラムの特徴を読み取り、数学的に説明する問題では、市平均を1.5ポイント下回った。	・確率では、問題の場面を正確に把握させることを重点的に指導する。 ・ヒストグラムや箱ひげ図に出てくる用語の意味とその求め方を確認する。 ・統計の分野は、近年、特に重要視されている内容であるので、事象を数学的に捉えたり、それらを比較・選択・説明できるよう、問題演習に取り組んでいく。

宇都宮市立陽北中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	62.5	59.3	62.1
	粒子	71.1	69.5	66.8
	生命	76.3	75.2	70.9
	地球	51.7	54.4	52.0
観点別	知識・技能	69.4	67.7	67.2
	思考・判断・表現	64.1	63.7	60.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

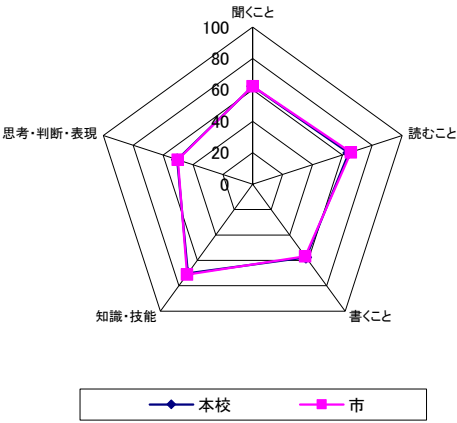
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	正答率は、市平均を3.2ポイント上回った。 ○「光の性質」「電流と磁界」の単元について、正答率が市平均を上回った。 ●模式図をもとに考える問題の正答率が低かった。	・模式図を読み取ることに課題があるため、実験結果を模式図に表現したり、模式図と実物を比較したりする活動を通して理解を深めさせる。 ・実験や日常生活で、現象を体験している単元の正答率が高い傾向にあるため、実験の機会を多く設けるとともに、日常生活と関連させる指導を行う。
粒子	正答率は、市平均を1.6ポイント上回った。 ○「身の回りの物質とその性質」「水溶液とイオン」の単元について、正答率が市平均を上回った。 ●化学反応式の係数についての正答率が低かった。 ●問題の条件に合わせて知識を活用する問題の正答率が低かった。	・化学反応式の学習において、カードや原子モデル等を使用し、化学変化は原子の組み換えであることを視覚的に説明したり、説明させたりすることで、左辺にあるもので右辺が成り立つことを理解できるよう工夫する。 ・問題の条件に合わせて知識を活用できるようにするため、問題解決の構想を立てたり、その過程や結果を振り返ったりする活動を取り入れる。
生命	○領域全体の正答率が市の平均を0.9ポイント上回った。 ○すべての単元で正答率が市の平均を上回った。 ○すべての短答および記述問題の正答率が市の平均を上回った。 ●名称や操作方法などの知識を問われる問題の正答率が低い。	・正答率の高さは、学習と身近な現象を結びつける機会の多さに起因すると考えられる。この指導を継続していくとともに、個のレベルに応じた指導の工夫にも取り組む。 ・理科でしか登場しない語句や実験操作の定着については、毎時間のはじめにデジタルドリルを活用して小テストを行うなど、反復学習の機会をより多く設ける。
地球	正答率は、市平均を2.7ポイント下回った。 ○すべての短答および記述問題で、無解答率が市の平均を下回った。 ●模式図から読み取れる情報から推測する問題で、正答率が市平均を4.5ポイント下回った。 ●提示された情報をもとに、公式を用いて計算し答えを導く問題の正答率が低かった。	・模式図を読み取ることに課題があるため、実験結果を模式図に表現する実習や、模式図から必要な情報だけをとり出す課題に多く取り組ませる。 ・公式の活用に課題がある点については、公式の導出を生徒自ら行わせるなど、公式の意味を理解できるよう工夫する。また、公式を用いた計算問題に取り組ませ、定着を図る。

宇都宮市立陽北中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	62.3	62.4	59.8
	読むこと	64.3	65.7	58.5
	書くこと	57.6	56.8	43.5
観点別	知識・技能	70.2	71.2	65.3
	思考・判断・表現	50.6	50.1	40.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	正答率は、市平均を0.1ポイント下回った。 ○英文を聞き、その内容理解を理解して、英文の内容に合う絵を選ぶ問題は4問中3問が市平均を上回り、特に人物の説明については4.9ポイント上回った。 ○日常的な話題について聞き、情報を把握したり、適切に回答する問題については0.9～2.2ポイント市平均を上回った。 ●対応文を聞き、概要を捉えて適切に回答する問題については3問とも市平均を下回った。特に「なぜそれを作っているのか」についての正答率は32.9%と市平均より9.9ポイント下回った。	・毎時の活動として既習内容を活用したディクテーションで音声情報を正確に捉える力を伸ばしていく。また、消しゴム talkingなどのペア活動を工夫し、応答したり発話したりする活動に慣れさせていく。 ・ALTやデジタル教科書上の音声データを活用し、正確な発音を身に着ける指導を行うことで、聞き取り能力の向上を図る。 ・聞く力をつけるための、教科書の音読を繰り返し実施するなど、興味関心の高い生徒と低い生徒の差を意識しなくても取り組めるような活動を取り入れていく。
読むこと	正答率は、市平均を1.4ポイント下回った。 ○対話を読み、文脈に応じた語句を選ぶ問題では、79.5%と市平均より4.0ポイント上回った。 ●全14問中10問が市平均を下回った。 ●メールの内容理解では市平均より6.8ポイント、対話文の情報の内容理解については6.3ポイント下回った。	・単語や文法知識の自然な習得を目指し、繰り返し長期的な視点で定着を促す指導を行う。 ・短い文章の読み取りを繰り返し行い、文章を読み解く上で重要な語句への意識を高める指導を行う。 ・AIDリルを活用して、文法事項の定着を図る。 ・ALTの授業や様々な種類の文章で多くの語句、既習事項に触れるように教材を厳選する。
書くこと	正答率は、市平均を0.8ポイント下回った。 ○3文以上の英作文では3問とも市平均を上回った。 ○「学校の制服について、自分の考えや意見をA相手に伝えるように書いている。」では市平均より7.6ポイント、「その理由を相手に伝えるように書いている。」では6.3ポイント上回った。 ●「SVOOの文の語順を正確に書いている。」が市平均より6.0ポイント下回った。	・表現しようとする意欲向上を継続するため、ICTを活用して多角的な表現に取り組ませていく。 ・各単元の表現を活用した作文活動を継続的にを行い、文法知識の定着を図る。 ・教科書の本文等を利用して、読み取った文章の内容を簡便な言葉で再構築するリテリング活動を取り入れる。 ・英作文の時間において、ALTとの協力やT.Tを生かしながら即時のフィードバックを行い、作文の正確性をより向上させていく。

宇都宮市立陽北中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○家庭学習の定着と充実	・「家庭学習ノート」を用意させ、最低でもノート1ページ分をむだなく使い切るよう学習を進めている。また、「家庭学習ノート」は毎朝学年職員がチェックを行っている。回収・返却・声掛け・月ごとの提出率の算出、各学級の学芸委員が行っている。 ・各学年・各学級の「ベストノート」を月ごとに選出し、級友の勉強方法やノートの使い方などについて参考になるよう掲示している。 ・学校だより、学年だより、学習だより等において、家庭への理解と支援を呼び掛けている。	○「ふだん、学校の授業以外に、一日どれくらい学習していますか」に対しての本校割合は、 ①月～金について1時間以上：1年生76.2%、2年生83.1%、3年生90.6%であり、市割合と比べると1年生は7.3ポイント、2年生は15.3ポイント上回っているが、3年生はほぼ同数となった。 ②土・日について1時間以上：1年生67.4%、2年生82.5%、3年生92.0%であり、市割合と比べると1・3年生はほぼ同数、2年生は18.8ポイント上回った。 ○「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」に対しての本校肯定割合は、1年生62.6%、2年生52.7%、3年生63.1%であり、市肯定割合と比較すると、1年生は6.1ポイント、2年生は3.2ポイント上回っており、3年生はほぼ同数となった。
○教師の授業力向上	・「授業力向上旬間」を設け、当該期間中に教員間において授業の相互参観を行い、各自の授業力の向上を目指している。(→「宇都宮モデル」を活用した授業づくり／「書く」に視点を当てた授業の工夫) ・授業改善の一つとして、板書の工夫を行っている。「めあて」「まとめ」を板書することを徹底している。また、適宜「ふり返し」をすることも実践している。	○「勉強が好きですか」に対しての本校肯定割合は、1年生46.3%、2年生48.6%、3年生40.3%であり、市肯定割合と比較すると、1年生は5.0ポイント、2年生は11.3ポイント上回っており、3年生はほぼ同数であった。 ○「学校の授業がどの程度わかりますか」に対しての本校肯定割合は、1年生87.1%、2年生86.5%、3年生80.5%であり、市肯定割合と比較すると、1年生は3.3ポイント、2年生は7.4ポイント上回っており、3年生はほぼ同数であった。 ○「授業を集中して受けている」に対しての本校肯定割合は、1年生89.8%、2年生89.2%、3年生85.2%であり、市肯定割合と比較すると、1年生は2.5ポイント、2年生は3.1ポイント上回っているが、3年生は4.1ポイント下回った。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

○家庭学習の定着を図るために、「家庭学習ノート」を継続するとともに、自主学習の質を高めるため、各教科から内容に関わるポイントを提示するなどして、生徒がより多くの選択肢の中から自分に必要な学習に取り組めるよう促していく。また、興味のあるテーマや趣味を学習と結びつけることで、学習意欲を高めさせていく。

○生徒の学力向上のために、教師の授業力を高めるための実践～「授業力向上旬間」での宇都宮モデルの活用と、「書く」に視点を当てた授業づくり～を継続していく。

○教師の授業力を向上させ、生徒の学習効果を高めるため、以下の実践を進める。

- ・異なる教材やリソースを使用することで、生徒の興味を高める。
- ・生徒が主体的に学習に参加できるように、ディスカッション、グループワークや、実社会や実生活に関連する教材などを取り入れる。
- ・定期的に生徒からフィードバックを受け取り、自分の授業方法を見直す。
- ・研修などに参加して得られた最新の教育理論や実践については、職員に共有するとともに情報交換を行う。